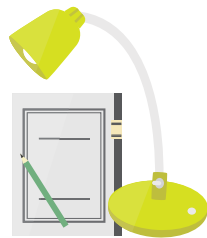


看護師国家試験対策 練習問題



① 国試の合格基準ってどうなってるの？

『必修問題』『一般問題』『状況設定問題』の3種類のうち、『必修問題』の8割という基準と『一般問題+状況設定問題』の2項目の合計が基準値を満たしていることが必要です。『一般問題+状況設定問題』の合格基準は毎年変動しますが、近年合格基準ラインは低下してきています。それは、全体的に問題が難しくなってきたことを表しています。過去問題を解くだけの学習では、合格することはますます困難になってきているのです。また、どんなに『一般問題+状況設定問題』の正答率が高くても『必修問題』を8割クリアしなければ不合格となってしまいます。まずは必修問題から確実に押さえていくことが重要です。

■一般問題+状況設定問題 合格基準の推移

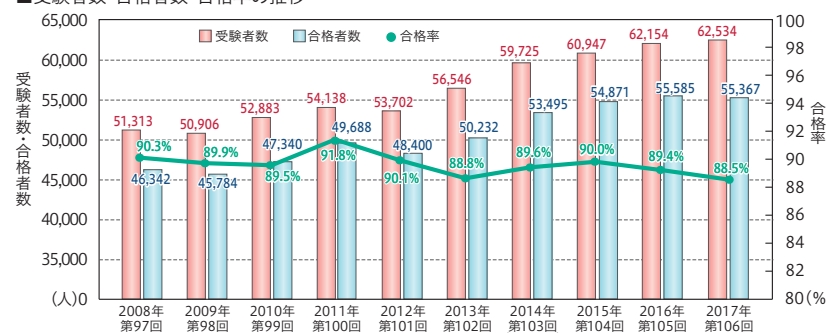
	第101回 (2012年)	第102回 (2013年)	第103回 (2014年)	第104回 (2015年)	第105回 (2016年)	第106回 (2017年)
得点 / (満点)	157点 / 247点	160点 / 250点	167点 / 250点	159点 / 248点	151点 / 250点	142点 / 248点
得点率	63.5%	64.0%	66.8%	64.1%	61.1%	57.3%

※第107回(2018年)は後日公表します。

② 合格率の推移ってどうなってるの？

例年、合格率は約90%前後で推移しています。約1割は不合格になりますが、それ以外は合格するのです。いかに9割に入るかが重要です。グラフからわかるように、少子化にも関わらず学校は増え、受験者はこの10年で1万人以上増加しています。今まで以上に受験生は多様性に富み(学力の高い人も低い人も増えた)、1点足りないから落ちてしまう人が増えています。逆を言うと1点でも多く取れば合格に

■受験者数・合格者数・合格率の推移



近づくということで、1点の差がとても大きな意味を持ちます。いかに確実に理解して点数を取っていくかが重要になるのです。

③ 出題基準はどう変わったの？

●出題基準って何？

国家試験には『どの範囲から問題を出すか』が書かれた出題基準というものがあります。カリキュラムが変わるように、この出題基準も数年ごとに更新されています。第107回の試験からは新しい出題基準に変更になりました(2017年3月30日厚生労働省からの公表)。

●適切な状況判断能力、確実な知識が問われるように

2016年2月の厚生労働省の公表によると、一般問題や状況設定問題は、視覚素材の活用や長い状況設定文の導入によって知識の単純想起型問題(暗記した事項を思

い出せば解答できる問題)を減らす方向性が示され第106回試験で導入されました。単純想起型問題が減るということは、①推定型問題(基本的事項・常識に基づいて推定すれば解答できる問題)や②解釈型問題(設問文で示された情報の意味を理解・解釈し、状況を判断して解答する問題。理解・解釈という思考過程は1回)、③問題解決型問題(知識の応用、複数データや状況の分析結果を統合し、意味ある全体にまとめあげる能力を求められる問題。設問文の読解を含め、理解・解釈の思考過程は2回以上)などが増えてくるということです。制限時間内に問題文の意図を正確に読み解き、情報を取捨選択する力がより必要と言えるでしょう。

●出題基準の項目の内容

出題基準には大項目・中項目・小項目とありますが、全体的に小項目が増えました。特に母性看護学は81項目増加し、看護の統合と実践は今まで小項目が無かったため新たに細かく追加されました。新しく追加されたものは、チェックしておきましょう。

●まず重要なのは『基本』を理解すること

第106回の必修問題は、単純想起型問題が多く、最低限の知識を問うものでした。出題基準の小項目に照らし合わせた重要事項を確実に押さえれば、合格基準の8割以上は十分にクリアできる内容だったと考えられます。ただし、第105回試験と比

④ 今後の試験に向けて、どう対策したらいいの？

●正答率の高い問題を押さえる！

正答率の高い問題とは、多くの人が正解する問題のこと。実は国家試験の問題の多くは正答率の高い問題です。不合格の人は、それを多く落としてしまっているのです。必修問題では、正答率70%以上の問題(100人解いたら70人以上の人が正解する)が9割を占めています。決して難しい問題ではありません。

東京アカデミーが、看護師国家試験受験者(第106回では20,514人)の解答データを徹底分析し、正答率70%以上の過去問題を関連問題別に編集した『看護師国家試験 高正答率過去問題集 でした！でた問』は、基礎を養うのにおすすめです。また、一般問題と状況設定問題は、正答率70%以上の問題が、かつては7~8割、近年は6~7割を占めていましたが、第106回は55%でした。つまり、先にも書いたように難易度が上がってきているということです。では、70%以上の問題集をやっているのに、合格できないのかというと、そうではありません。正答率が70%未満の問題を見てみると、かつては70%以上の問題だったものが、角度を変えたり、四肢択一から五肢択一や五肢択二になっているために、正答率が下がっているものもあります。出題形式の変化に惑わされないよう、正答率70%以上の問題集で基礎をしっかりと養うことが、とても重要なのです。

今回は、正答率70%以上の問題を押さえたら解ける問題や、出題基準が変わってからの特徴的な問題などを、Mediānが独自に過去問題から選別しました。理解が深まるよう、解説や『Check & Check!』に加え、『覚えておこう!』では関係法規を紹介していますので、参考にしてみてください。

※『Check & Check!』は東京アカデミーの講義で使用する『オープンセサミ参考書』から、『覚えておこう!』は東京アカデミー受講生限定の資料集『おてがるチェック!』から引用しています

●アセスメント能力を養おう

新出題基準と従来の出題基準との違いを確認することはもちろんですが、どんな力が求められているのかも確認しておきましょう。

べてより正確に数値や法規を覚えていることが求められる問題が目を見ました。一般問題・状況設定問題は、毎年社会情勢が反映されたものが出題されますが、第106回試験は新しいものとして特定行為や今まで出てこなかった先天性異常に関する問題が複数出題されました。それ以外に、放射線に関することや障害高齢者の日常生活自立度に関する問題は、より深い知識を問うものでした。

全体として重要なのは、『診療の補助』と『療養上の世話』という看護師の基本的な仕事を理解していることです。単なる暗記ではなく、広い視点をもって患者さんの状況をアセスメントし、『できる看護は何なのか?』を考えることが正答へつながると考えられます。



近年の問題では、実際の場面を想像して判断しなければ解けない『優先順位』や『アセスメント能力』を問うものが増えています。これらに対応する力を養う場のひとつとして有効なのが実習です。受け持ちの患者さんの状況をよく観察し、情報を集め、アセスメントする。そして再度、教科書や参考書を見て患者さんの状態を理解しましょう。優先順位は必ず根拠をもって決定することが大切です。

実習以外では、看護師国家試験の状況設定問題が役立ちます。はじめに事例の症例・検査データから状態をアセスメントします。検査データの基準値を知っておくことはもちろん、その検査が何を意味するのか理解しておくことも必要です。優先順位を問う問題は、『どの選択肢も間違いではない』のが特徴です。実習でもそれ以外でも、指導者や同級生の意見を聞くなどして、柔軟な思考をもつことが重要になります。

●社会の動きを知ろう

社会情勢を反映した問題に対応するためには、日頃から新聞やテレビ、インターネットなどで看護と関連する情報をチェックする姿勢を身につけておくことです。また、毎年8月末に発行される『国民衛生の動向』に目を通し、教科書などに新しい数字を書き込んでおくと、試験のポイントも見えてきます。看護師国家試験で問われる数値は、最新のものより1年前のものからの出題が多いようです。動向を見ながら3年分は目を通すのがベストです。

●本番の試験をシミュレーションしよう

本番の試験では、必須問題・一般問題は1問約1分、状況設定問題は1事例約6分で解答しなければなりません。本番と同じ時間配分で同じ問題数を少なくとも3回は解くことをおすすめします。『優先順位』を問うような解答の絞りにくい問題は、その時点で適切だと思う解答を、とりあえずマークシートに記入します。問題の横に印をつけ、後から時間があれば見直すようにすると時間オーバーを防止できます。勉強を進めていくと焦ることもあるかもしれませんが、まずはできることからやってみましょう。少しずつでも積み重ねていけば、きっと皆さんの力になるはずです。

1年間の学習計画

基礎看護学は実習でチェック

必修問題でも重要な基礎看護学は、看護技術で毎回図が出題されるので実習経験が役立ちます。特に検査に関する援助は実習経験が力になります。また、手技を行う根拠も問われることが増えています。実習で根拠にまで着目して基礎看護技術を押さえることが、勉強時間の節約につながります。

春から夏休みの学習

『人体の構造と機能』『疾病の成り立ちと回復の促進』は必ず夏休みまでに押さえましょう。解剖生理学の内容に関する成人看護学の疾患の問題を解くなど、知識をつなげると範囲の広い成人看護学の勉強も楽になります。また夏休みは、看護の基本となる解剖学と生理学を固めます。最近では名称を単純に覚えればよい解剖学だけでなく生理学も多く出題されており、いかに身体の仕組みを理解しているかが重要になります。正常を理解すればそこに異常が起きたものが疾患なので、生理学を押さえることでさらに病理学も学べます。受験者の多くが苦手意識をもつ薬理学も、疾患の仕組みと関連づけて効率的に学習しましょう。

秋から冬休みの学習

過去問や模試のやり直しを丁寧にする時期です。択一式の問題では、選択肢をすべて知らなくても正答できる場合がありますが、出題内容の周辺知識まで確実に理解しましょう。また、覚えるべき図表をノートにまとめたりに壁に貼ったりしておく、空き時間にチェックできて便利です。

冬休み明けから試験までの学習

間違った部分や苦手な教科、単元を中心に復習します。短い期間で点数アップが期待できるのは、暗記がある程度求められる法律や小児看護学、母性看護学です。また、看護師国家試験の出題基準をもう一度見てみると、学習の見落としがないかが分かり、不安な気持ちも落ち着くでしょう。



先輩たちの勉強法

●短時間で集中して基本を確実に押さえる



山口県 坂田 輝 さん

国試の勉強をするうえで『1日のノルマを決めて、確実に理解すること』を、日頃から心がけました。長い時間集中することは難しいので30分、1時間と時間を決めて勉強すると良いですよ。第107回試験は、新出題基準が適用されると聞いています。丸暗記ではなく解剖・生理や基礎看護を確実に押さえることが大切です。私は実習の時に、担当した患者さんの疾患や数値、基本的な援助については、関連づけて勉強しました。なかなか疾病が覚えられず苦労しましたが、繰り返しやることで徐々に理解が深まっていきました。

●分からないことはそのままにせず振り返りを



岡山県 後藤 幸子 さん

私は、本番で見たことのない問題が出て焦らないように、多くの問題を解きました。問題の数をこなすことで、見たことのない問題が出てても他で点数を取れるようにしたかったからです。解いていて分からない箇所は、ふせんを付けたリ、ノートに箇条書きしたりしておき、時間がある時に調べました。その場でメモすると、分からない所を見失うのを防げます。調べる際には、東京アカデミーの参考書(オープンセサミ)をよく活用しました。分からないことはそのままにせず、1つずつクリアすると良いと思います。

